

総合的な探究の時間「未来計画」の実践と評価

— チーム湧別として取り組む「湧別高校魅力化プロジェクト」と地域連携の推進 —¹

江草千春

(北海道岩見沢東高等学校)

Practice and Evaluation of Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study “Future Plan”: “Yubetsu High School Attractiveness Project” as a Team Yubetsu and Promotion of Regional Cooperation

Chiharu EGUSA

(Hokkaido Iwamizawahigashi High School)

概要

令和4年度から本格的に実施される高等学校学習指導要領によると、小学校3年生から行われている「総合的な学習の時間」が、高等学校では、「総合的な探究の時間」に変更され、平成31年4月1日以降に高等学校に入学した生徒について適用されることとなっている。この時間では、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していくものとなっている。また、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、の探究のプロセスが繰り返され、連続することによって実現される（文部科学省, 2018b）。

本稿では、湧別町の人口減少や北海道湧別高等学校の入学者減少の問題を解決するため、学校だけではなく、湧別町、湧別町教育委員会、民間会社、そして、大学の専門家と連携を取りながら、答えのない諸問題に取り組む「チーム湧別」としての活動が始まった。そして、地域を活性化し、魅力ある学校をめざし、湧別の抱える諸問題の解決のために「湧別高校魅力化プロジェクト構造図」が作成され、①町づくり参画（未来計画プロジェクト）、②国際交流（留学を柱にした活動）、③郷土愛（特色ある設定科目）の3つの大きな柱が構築された（資料1参照）。そこで、本稿では、その3つの柱の1つである、平成30年度及び令和元年度に行われた総合的な探究の時間である「未来計画」について、詳細に報告し、地域の創生について考察する。

1. はじめに

我が国が人口減少・少子高齢化の波にさらわれてからかなりの時間が経つ。北海道においても平成9年に約570万に達してからは減少し始め、現在も全国を上回るペースで減少が続いている。また、北海道の公立高等学校数についてもピーク時の昭和63年には274校だったものが、令和2年には213校と61校の減少となっている（北海道教育庁学校教育局高校教育課, 2020）。さらに、北海道は面積が非常に広大であり、地域分散型であるため、へき地・小規模校が多いという特色があり（江草, 2006; 宮前, 2015; 篠原, 2019）、道立高等学校においては、令和元年5月1日現在、203校中67校がへき地学校として指定されている（北海道教育委員会, 2020）²。

また、平成30年に告示された新学習指導要領によると、育成を目指す資質・能力の三つの柱である①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等、といった新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習

指導の充実、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や、目標・内容の見直し、改訂の方向性として挙げられた（文部科学省, 2018a）。さらには、社会に開かれた教育課程や学校におけるカリキュラム・マネジメント推進のため、へき地・小規模校においても地域と連携・協働しながら様々な教育実践が行われている（深見・森, 2020; 後藤・川端, 2019; 岩本, 2015; 高嶋他, 2017; 玉井, 2013）。

前述の新学習指導要領による改訂の方向性に加えて、小学校3年生から行われている「総合的な学習の時間」が、高等学校では「総合的な探究の時間」に変更された。前者は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、後者は、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していくものとなっている。また、育成を目指す資質・能力の1つである「思考力・判断力・表現力等」の育成について横断的・総合的な学習や探究においては、①課題の設定、

②情報の収集, ③整理・分析, ④まとめ・表現, の探究のプロセスが繰り返され, 連続することによって実現される(文部科学省, 2018b)。さらに, このプロセスを効果的に行う学習方法として, 協同学習の1つであるプロジェクト型学習(Mikouchi, Akita, & Komura, 2019; 山崎, 2018; 安永, 2012)が用いられ, 地域と連携・協働した課題解決学習が行われている(三河内・藤井・木村・秋田, 2020; 茂木・松本, 2020)。

このような学習を推進していくことによって, これからの社会で求められる答えのない問いに対してどのような最適解を導き出していく必要があるのか。また, 人口減少・少子高齢化で活力が失われている地域において課題を発見して, それを解決し, 地域の魅力をどのように発信し, 地域の創生につなげていけばよいのだろうか。本稿では, 平成30年度及び令和元年度に行われた北海道湧別高等学校での総合的な探究の時間である「未来計画」の実践を詳細に報告し, アンケートの評価も含めて考察する。

2. 北海道湧別高等学校の概要

北海道湧別高等学校(湧別高校)は, 昭和28年に「地域の子供も達は地域で教育する」という理念の下に, 当時の上湧別村, 下湧別村の組合立高等学校として設置され, 昭和31年に道立に移管された。現在へき地1級に指定されている全日制普通科の高等学校である。平成17年度から湧別中学校, 上湧別中学校, 湖陵中学校(現在の芭露学園)の町内3中学校と, 北海道で初めての複数の自治体における連携型中高一貫教育を導入した。STCプログラムと呼ばれる将来の職業観を磨くキャリア教育や, 乗り入れ授業, つなぎ学習といった中学校および高校の6年間を通じた教育課程を中心としたプログラムを推進している³。平成19年度から21年度まで文部科学省より高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進指定校, 平成23年度から24年度まで北海道教育委員会より高等学校における発達障がい支援連携モデル事業指定校, 平成25年度から26年度まで北海道教育委員会より高等学校における特別支援教育支援員配置事業指定校, 平成28年度から29年度まで北海道教育委員会より特別支援教育総合推進事業「発達障がい支援成果普及事業」指定校に指定された。

このような指定校事業の推進後, 魅力ある高校を目指して, 校内だけではなく, 湧別町, 湧別町教育委員会, 民間会社, そして, 大学の専門家にも協力をいただいて平成30年度から3カ年計画で, 21世紀に求められる資質・能力を涵養するための新しい学びのモデルの開発と中高生が地域課題の解決に取り組むことによる地方創生モデルの創出を目指して, OECD(経済協力開発機構)イノベーション教育ネットワークにおける実践校として研究を進めている(日本イノベーション教育ネットワーク, 2018)。さらに, 令和元年度には, 文部科学省の「地域との協働による高等学校教育

改革推進事業(地域魅力化型)」へ参加し, 地域協働推進校(アソシエイト)に認定された(文部科学省, 2019)。地域とともにある学校としての自覚のもと, 湧別町と連携しながら, 町が抱える課題を貴重な教育資源ととらえ, 探究活動のさらなる充実を図っている。

3. 総合的な探究の時間「未来計画」の実践

湧別高校は, 平成16年度から普通科2学級募集の学校となっている。しかしながら, 少子化の影響もあって平成28年度の入学者数は, 過去最少の35人となり, 2学級募集の学校であるのにも関わらず, 1学級で学校運営をしなければならない事態となった。平成29年度には, 42人の入学者数を確保し, 2学級に回復した。しかしながら, 平成30年度は38人の入学者数となり, 2学級の確保にわずか3人足りなく, 再び1学級となってしまった。

このような現状があるため, 魅力ある高校を目指すため, 平成30年3月下旬に鳥根県から, 廃校の危機から学校を再建した講師を招いて, 高校の教員や生徒会執行部の生徒, 保護者, 湧別町職員, 地域の人々が参加し, 湧別高校の意志ある未来(学校再建へ向けての方策)となりゆきの未来(廃校にむけての方策)について議論を深めた。その中から生まれた湧別の抱える諸問題としては, 人口減少・高校生減少・高齢者の増加・人手不足・外国人増加・部活動の減少(継続性の低下)・教師数の減少・娯楽施設の少なさ・価値観の固定化などが挙げられた。そして, このような答えのない諸問題の解決を図るため, 湧別町, 湧別町教育委員会, 湧別高校, 株式会社YBT, そして, 北海道大学の研究者を巻き込んだ「チーム湧別」としての活動が始まった。この「チーム湧別」が協力しながら解決策をみつけ, 実現に向けて試行錯誤する経験を通し, 町の良さを再確認し, 発信し, 町作りに参画する子どもを育てるために, 「湧別高校魅力化プロジェクト構造図」が作成され, 3つの柱(①町づくり参画-未来計画プロジェクト-, ②国際交流-留学を柱にした活動-, ③郷土愛-特色ある設定科目-)が構築された(資料1参照)。以下に, それぞれの柱について説明していく。

まず, ①町づくり参画に関しては, 湧別町の魅力や私たちにできる地域活性をテーマに高校生ができる町おこしプロジェクトを考えてもらい, 平成31年度後期に報告会ができるように研究を進めている。例としては, 湧別高校生主催バスツアー・新しい湧高グッズ作成・特産物をつかった新メニュー開発・小中高コラボイベント・カレーマラソン大会, などがある。

次に, ②国際交流に関しては, 湧別町は, カナダのホワイートコート町とニュージーランドのセルウィン町と姉妹都市の関係があり, 中高生や一般市民が2週間留学できる制度がある。湧別町出身で湧別高校在学中であれば全額の旅費を町から補助を受けることが可能である。このような資源を最大限に活かして, 次のような企画が考えられる。例

としては、英語版湧別町の魅力を集めたホームページの開設、英語版湧別町魅力マップ作成と配付、生徒による湧別町案内ツアー、などが挙げられる。実際に、令和元年度までに行われた企画としては、校内留学報告会、系統化された日本文化体験授業（折り紙・書道等）、留学後のレポートポスター廊下掲示がある。

最後に、③郷土愛に関しては、湧別町の魅力を知る・体験する・発信する理科の科目「科学と人間生活」と湧別高校独自の学校設定科目「北海道学」、「地域と生活」により、郷土愛教育の充実を図る。例えば、地歴公民科の「北海道学」では、縄文土器作成教室・町内遺跡巡りフィールドワーク、地域産業見学、などがある。家庭科の学校設定科目「地域と生活」では、ふるさと料理を作ろう（ホタテの稚貝を利用）・生徒による近隣幼稚園教室、などがある。また、「科学と人間生活」では、農作物体験教室・生徒による地域小学校向け出前教室・ホタテ解剖授業などがある。

このように、「湧別高校魅力化プロジェクト構造図」に記載されている3つの柱を基にして教育活動を推進しているが、本稿では、総合的な探究の時間の「未来計画」で実践した、①町づくり参画プロジェクトについて報告する。このプロジェクトでは、働くこと（職業観・勤労観の育成）、学年の枠を越えて交流すること、そして、地域について学ぶこと、という3つのキーワードについてグループで学習する機会をつくっている。

3.1 平成30年度の実践（「仕事の内容・やりがい・魅力」と「湧別町の魅力と私たちができること」）

平成30年度前期は、8時間計画で全学年の生徒を、1グループ5人、もしくは、6人の縦割りで編成した。平成30年度の「未来計画」の目的は、次の2つであった。1つ目が、生徒が学年の枠を超え、議論や対話など主体的な活動をおし、自分や地域の未来について考える。2つ目が、町内外で働く方から話を聞き、職業観や勤労観を養う。最初の1・2時間目の授業では、未来計画のガイダンスを担当教員が行い、その後グループに分かれて自己紹介をし、働くことについて議論し、次の時間では、どのような職業に就いている人の話を聞きたいかアンケートに記入してもらった。3・4時間目の授業では、町内で働いている方を12名招いて、生徒1人あたり2名の方の仕事の内容・やりがい・魅力などを聞いて、メモをした（写真1参照）。5・6時間目の授業では、3・4時間目でメモした内容についてグループ内で話し合い、意見を共有し、その後、模造紙、スケッチブック、パソコンなどを用いてまとめた。そして、7・8時間目の授業では、ワールドカフェ方式で、グループ内で残って他のグループについて説明する人、あるいは、他のグループの発表を聞く人に役割分担をし、相互発表を10分間で3回行った。発表が終わると、記録シートに発表の評価や振り返りを行った（写真2参照）。

平成30年度後期においても、12月に8時間計画で「未来計画」を実施した。後期には、生徒会執行部が中心となっ

てクラウドファンディングで43万円の資金を集めた。そして、町内だけではなく、町外、あるいは、東京などの道外で働いている方も招いて仕事のやりがい・魅力だけではなく、湧別町の発展に必要なことについても探究のプロセスに基づいて実践した（資料2参照）。1・2時間目の授業では、体育館で縦割りの4人、もしくは、5人のグループが28班編成され、最初に、3・4時間目の授業において実際に働いている人について誰の話を聞きたいかアンケートに記入した。その後、「湧別町の魅力について」の話し合いがKJ法を用いて行われ、その後、近くの班と相互発表を行った。3・4時間目の授業では、実際に、働いている人から2回話を聞いて、内容をワークシートにまとめた。その後、クラウドファンディングで集めた資金を使って招聘した講師2人から「町おこし」に関しての話を聞いた。5・6時間目の授業では、前時で聞いた話をグループ内で共有し、その後、「働くこと」と「湧別町の魅力をPRするために私たちができること」の2つのテーマについて、グループの意見をまとめ、付箋紙、模造紙、パソコン、スケッチブックなどを用いて発表準備を行った。7・8時間目の授業では、5・6時間目でまとめた2つのテーマについて各班で相互発表を行った。

3.2 令和元年度の実践（「屯田七夕まつりと学校祭の合同開催」と「湧別町が抱える課題とその解決策」）

令和元年度前期においては、「町の活性化のために湧別高校ができることは？」という生徒の意見があり、その中で「湧別町と高校で合同のイベントを開催してはどうか？」という話になり、湧別高校の学校祭と湧別町の屯田七夕まつりを合同実施するプロジェクトが生まれた。令和元年度の「未来計画」の目的は、次の2つであった。1つ目が、生徒が学年の枠を超え、議論や対話など主体的な活動をおし、自分や地域の未来について考える。2つ目が、地域の将来の担い手として、地域活性化を目指した活動に取り組み、郷土愛を育む。この2つの目的を達成するため、湧別町や湧別町商工会と協力しながら、学校祭の二日目である7月7日に開催された屯田七夕まつりのプロジェクトに参加した。12時間配当で生徒会執行部、体育常任委員会、文化常任委員会、保健常任委員会、放送局、新聞局、ホームルーム書記、ホームルーム会計、その他のグループが1つのユニットとして、イルミネーションのデザイン・設置、掃除、SNS拡散（公式インスタグラム・ツイッター）、アンテナタワー、綿あめ・金魚すくい、募金活動、模擬店、つりぼり、タピオカ専門店、カフェ運営などのプロジェクトを行った。6月7日から毎週2時間ずつプロジェクトを行い、1回目の授業では、湧別町長と湧別町商工会長から屯田七夕まつりの協力についての挨拶があった。その後、2・3・4・5回目の授業では、各ユニットで企画書を作成し、物を作ったり、商品を仕入れたり、実際に、掃除の練習などを行い、祭りに向けての準備を行った（写真3・4参照）。そして、祭りが終わった7月12日には、活動内容の整理

を行い、模造紙に内容をまとめ、相互発表を行った。

令和元年度後期においては、令和2年1月に6時間配当で2時間ずつ行い、湧別町が抱える課題の発見と地域活性化に向けてプロジェクト学習を行った。今回も、各学年2名ずつの縦割りのグループを20班編制した。今回については、前回までとは違い、それぞれのグループには担当の教員を配置せず、生徒が自分たちで湧別町の課題について話し合いを深め、解決策を考えるように指導した。1回目の授業では、最初に湧別町長から湧別町が抱える課題についてお話を頂いた。その後、個人でワークシートに課題を考えて記入し、そして、グループで課題の共有を行った。最後に、福祉・医療・国際交流・教育・商業・農業・水産業・林業・観光の9つの分野について、どの分野の話をも町の専門家から聞きたいかアンケート調査を行った。2回目の授業では、1回20分で湧別町が抱える課題についての話をそれぞれの専門家から2回聞いた。その後、個人で話の内容をまとめ、グループ内でその内容を共有した。3回目の授業では、グループで町の課題とその解決策について議論を深め、その後、模造紙に内容をまとめ、グループで相互発表を行った。

4. 「未来計画」における生徒及び教員による評価

前節では、湧別高校における総合的な探究の時間「未来計画」について、平成30年度及び令和元年度の実践について詳細に報告した。ここでは、平成28年度及び平成29年度に入学した高校3年生と教員のアンケート評価を報告する。

4.1 高校3年生によるアンケート評価⁴

まず、湧別地区中高一貫教育推進委員会（2019）によると、平成28年度に入学した高校3年生34名に行ったアンケート調査では、「今年から始まった「未来計画」に参加して良かったですか？」という問いに対し、97%が、とても良かった、良かった、もしくは、どちらかと言えば良かったと回答した（表1参照）。次に、自由記述式のアンケートでは、前述の肯定的な回答をした生徒は、「未来計画によって多くの企業の方が来てくれて、気になった話が聞けたから」などの記述が見られた。また、否定的な回答をした生徒は、「他学年とのグループだったので、仕事をしていない人やずっと話している人、チーム分けがあまりできていなかったから」という記述が見られた（表2参照）。さらに、「「未来計画」に参加してどんなことを学びましたか？」という質問についての自由記述式のアンケートでは、「行動力の重要性和チャレンジ精神」や「将来どんなことをしていきたいか、どんな自分になりたいかを周りの人に伝えること」などの記述が見られた（表3参照）。

表1 「今年から始まった「未来計画」に参加して良かったですか？」の質問の回答結果

	割合
とても良かった	27%
良かった	55%
どちらかと言えば良かった	15%
どちらかと言えば良くなかった	3%
良くなかった	0%
全く良くなかった	0%

表2 「今年から始まった「未来計画」に参加して良かったですか？」の質問についての主な理由に関する自由記述

【とても良かった／良かった／どちらかと言えば良かった】
・未来計画によって多くの企業の方が来てくれて、気になった話を聞けたから。
・コミュニケーション能力を付けるという場にもなったし、仕事とは…と考えることができた。
・3年生の自分たちはもちろんだが、1・2年生にとっても進路を考える良い機会になったと思うから
・短時間で発表する能力は社会に出てからも必要になると思うから。
【どちらかと言えば良くなかった】
・他学年とのグループだったので、仕事をしない人やずっと話している人、チーム分けがあまりできていなかったから。

表3 「未来計画」に参加してどんなことを学びましたか？の質問についての自由記述

・行動してみることが大切ということ。
・プレゼンの能力やコミュニケーションの大切さ。
・仕事の大切さややりがい、なんでも全力でやること。
・チームワーク、自主性の大切さ。
・行動力の重要性和チャレンジ精神
・将来どんなことをしていきたいか、どんな自分になりたいかを周りの人に伝えること。
・他の学年とどうしたら仲良くなれるのか、など相手のことを考える力。
・人それぞれ違う考えを持っている一方で、同じ意見が出た時は共感し合える楽しさを学んだ。

次に、湧別地区中高一貫教育推進委員会（2020）によると、平成29年度に入学した高校3年生40名に行ったアンケート調査では、「「未来計画」に参加して良かったです

か？」という問いに対し、95%がとても良かった、良かった、もしくは、どちらかと言えば良かったと回答した(表4参照)。次に、自由記述式のアンケートでは、前述の肯定的な回答をした生徒は、「湧別町と共同してお祭りをつくるという経験は他ではなかなかできないことだから」などの記述が見られた。また、否定的な回答をした生徒は、「全学年をまとめるのが難しくて、正直あまり良い内容にならなかったから」という記述が見られた(表5参照)。さらに、「未来計画」に参加してどんなことを学びましたか？」という質問についての自由記述式のアンケートでは、「時間を有効に使うこと(計画性)、協調性・団結力」や「知らなかった湧別町の課題や良いところ」などの記述が見られた(表6参照)。

表4 「未来計画」に参加して良かったですか？」の質問の回答結果

	割合
とても良かった	30%
良かった	40%
どちらかと言えば良かった	25%
どちらかと言えば良くなかった	0%
良くなかった	3%
全く良くなかった	3%

表5 「未来計画」に参加して良かったですか？」の質問についての主な理由に関する自由記述

【とても良かった/良かった/どちらかと言えば良かった】
<ul style="list-style-type: none"> ・大変なことばかりだったけど、自分自身の成長に繋がったから ・湧別町と共同してお祭りをつくるという経験は他ではなかなかできないことだから ・今まで知らなかった仕事のことや、やりがいを知れたし、いつもお世話になっている湧別町に湧高生全員で恩返しできたと思うから ・上手くできるか不安だったけど他学年と交流できて楽しかったから ・これまで他学年と関わるのがなかったが、未来計画で学年を越えて1つのものをつくるのが楽しかったから ・色々な人と話し合い、苦手なコミュニケーション能力が鍛えられたから ・計画性が身についたから ・今年の未来計画より楽しかったから
【良くなかった/全く良くなかった】
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年をまとめるのが難しくて、正直あまり良い内容にならなかったから

表6 「未来計画」に参加してどんなことを学びましたか？」の質問についての自由記述

<ul style="list-style-type: none"> ・下級生との接し方や話し合いの進め方、企画力など ・意見を出して、より良いものを作りあげるという向上心や楽しさを学べた ・人それぞれ違った考えや意見を持っていること ・コミュニケーション能力や役割分担をする調整力・運営力 ・時間を有効に使うこと(計画性)、協調性・団結力 ・周りを気遣うことの大切さ ・話をまとめる力、任せる仕事の向き不向き ・知らなかった湧別町の課題や良いところ

4.2 教員によるアンケート評価

教員によるアンケートに関しては、平成30年度は、1年間の教育活動を振り返る年度末反省や後期未来計画反省から自由記述式で書かれたものについて抜粋して報告する。また、令和元年度は、前期については、「屯田七夕まつり」終了後に書かれたもの、後期に関しては、年度末に書かれたものを抜粋して報告する。

まず、平成30年度未来計画反省アンケートについての感想・意見に関しては、「前期に1度やっているの、生徒もスムーズに活動していてよかった。また、今後の総合的な探究の時間にも活きると感じた」や「グルーピングは慎重にやらなければならないと改めて思った。(人間関係、欠席が多い等)」などの記述が見られた(表7参照)。一方、反省点・改善点に関しては、「ゲストや講師の選定はとても難しいことですし、来てみないとわからないという部分も多いですが、次年度に向けて検討されたら良いと思います」や「前期との違いがよくわからなかったの、違いの分かるような資料のまとめ方にしてもよかったのではと感じました。(KJ法だけではマンネリ化するかもしれません)」などの記述が見られた(表7参照)。

表7 平成30年度未来計画反省に関する教員によるアンケートについての自由記述(一部、個人名などの記述は筆者が修正している)

【感想・意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・未来計画に関して、生徒(生徒会中心)が授業の内容に参画するスタイルはとてもすごいことだと思います。生徒の授業内容への参画、継続して取り組んで欲しい。 ・クラウドファンディングについての評価は良いと考えます。 ・前期に1度やっているの、生徒もスムーズに活動していてよかった。また、今後の総合的な探究の時間にも活きると感じた。 ・担当の先生をはじめ、未来計画を回してくださった

先生方に感謝しております。この話が出たときはどんなことになるのか全く見えず、不安でいっぱいというのが正直な気持ちでしたが、先生方のご尽力により生徒が生き生きと創意工夫しながら発表している姿を見ることができてとても嬉しくなりました。

- ・(体調不良などの理由で「未来計画」の時間で)欠席があり、当初の役割分担が予定通りにならないため、グループ構成にはより配慮が必要かもしれないが、4名は全員が役割を当てやすいので人数的には良いと思う。
- ・グループは慎重にやらなければならないと改めて思った。(人間関係、欠席が多い等)

【反省点・改善点】

- ・講師は10人前後で1人2回話してもらって前期の形がよかったと思います。せっかく来ていただいて15分1回はもったいないと思いました。
- ・ゲストや講師の選定はとても難しいことですし、来てみないとわからないという部分も多いですが次年度に向けて検討されたら良いなと思います。
- ・プレゼン力を高めたい(アウトプットする力)を高めたい。
- ・前期との違いがよくわからなかったもので、違いの分かるような資料のまとめ方にしてよかったのではと感じました。(KJ法だけではマンネリ化するかもしれません)
- ・あまり参加できていなかったのですが、前期でやっていたこととほぼ同じようなところ(湧別町の魅力、職業のやりがいなど)があったので、別のことができたのではと思いました。
- ・毎回の未来計画の時間で体育館に来られない先生方が多く見受けられたことが残念でした。教員全員で生徒を観察し参加できたらよかったなと思いました。

次に、令和元年度未来計画前期反省に関する教員によるアンケートについては、屯田七夕まつり・ユニット活動・他のユニット活動・それ以外の観点からの自由記述があり、「実質、クラスの準備もあり、ラスト一週間で無理やり終わらせた感があった。苦しかった。」や「この取り組みは、湧別高校の目玉になると思った。地域学習系の授業ともしっかりと絡めると、かなりのPRになると思う」などの記述が見られた(表8参照)。

表8 令和元年度未来計画前期反省に関する教員によるアンケートについての自由記述(一部、個人名などの記述は筆者が修正している)

【屯田七夕まつり準備期間の反省】

- ・生徒の活動の期間としては良かった(長すぎず、短すぎず。生徒が足りないと感じたほうが工夫できるため良いと考える)。
- ・手探り状態だったため仕方ないと思うが、来年は内容も予算も計画的に進めたほうが良い。
- ・実質、クラスの準備もあり、ラスト一週間で無理やり終わらせた感があった。苦しかった。

【ユニット活動の反省点】

- ・生徒たちが中心になり、活動を楽しみながらできていたと思う。最初の何をするかを決めるまでは、教員が入って進めていたが、自主的に生徒が動き始めてから任せることができて、生徒に恵まれたと思いました。
- ・この取り組みは、湧別高校の目玉になると思った。地域学習系の授業ともしっかりと絡めると、かなりのPRになると思う。

【他のユニット活動の反省点】

- ・いくつかのユニットで模擬店に取り組んだが、民間の出店と商品と重なるところがある部分は控えた方が良い。
- ・custodial, キックボーリングは準備期間を持って余していました。

【それ以外の反省点】

- ・生徒の自由時間を確保する必要あり。湧別高校のテントを移動するのはやめた方が良い。移動しなくて良い形にすべき。
- ・当日の負担の軽減、時程の見直し(模擬店禁止等)

最後に、令和元年度未来計画後期反省に関する教員によるアンケートについての感想・意見に関しては、「限られた時間での企画、運営お疲れさまでした。町のバックアップを受けられるというのは湧別高校の大きな強みだと思います。今後も町の中心として活躍されている方からの講話を通して様々な課題を考えられるような時間になればよいと思います」などの記述が見られた(表9参照)。一方、反省点・改善点に関しては、「生徒が考えたアイデアを校内発表にとどめずに、WEBにアップしたりして町民に良いアイデアを選んでもらう方法もあると思う。パソコンを全学年で一斉に使うことが出来ないため、学年や組別で時間を確保する必要はあるが、外部発信は挑戦してみる価値があるではないか」などの記述が見られた(表9参照)。

表9 令和元年度未来計画後期反省に関する教員によるアンケートについての自由記述（一部、個人名などの記述は筆者が修正している）

【感想・意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・町の人たちから湧別にはどのような課題があって、どんなことで解決しようとしているのか、と聞く機会もとてもよかったですと思います。講師の方も準備をかなりしてくださっていたのも感じました。 ・限られた時間での企画、運営お疲れさまでした。町のバックアップを受けられるというのは湧別高校の大きな強みだと思います。今後も町の中心として活躍されている方からの講話を通して様々な課題を考えられるような時間になればよいと思います。 ・良好。非常に素晴らしかった、今までの反省がいきている。 ・なんでもそうかもしれませんが、「知ること」で新しいことが発見できたり、課題に気づけたり、行動方針が決まった、優先順位が決まったりすると思います。生徒それぞれのいろんな気持ちが原動力となって行動（波）が起きる。そうなるといいなと思いました。生徒にとって、そういった取り組み（知ることから始まる探究活動）が他のことにも応用できるといいなと思いました。
【反省点・改善点】
<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を見ると突飛な発想や発表方法の奇抜さが高い評価を受けているように思いました。生徒は生き生きとしていましたが、湧別町のためになることが出来たのかという肯定しづらいです。 ・課題を話し合い、解決策を出し、発表までの時間ももう少し欲しかったなと思います。 ・次年度からどのようにグループ分けをして課題に取り組ませるのが難しいと感じます。 ・総合的な探究の時間の取り組みとして継続的に取り組むのであれば、縦割りの取り組みでいいのか検討してみてもいいと思います。縦割りのほうがいいというのであればそれでいいと思うが、学年ごとの取り組みで積み上げていくほうがいいと私は考えます。 ・生徒が考えたアイデアを校内発表にとどめずに、WEBにアップしたりして町民によいアイデアを選んでもらう方法もあると思う。パソコンを全学年で一斉に使うことが出来ないため、学年や組別で時間を確保する必要はあるが、外部発信は挑戦してみる価値があるではないか。

5. 考察と今後に向けて

ここでは、前節での「未来計画」における生徒及び教員による評価結果を基に、考察する。まず、高校3年生によるアンケート評価によると、平成30年度及び令和元年度、両年度とも95%を超える生徒が肯定的な評価をした。また、「未来計画」に参加して良かった点や、どんなことを学びましたか、という理由としては、コミュニケーションの大切さ、他の学年の生徒とどのように接したら良いか、知らなかった町の課題や良い所、などを挙げていた。これについては、湧別高校と同様に、人口減少や少子高齢化の問題を抱えている島根県の県立高校における岩本（2015）の実践においても、地域の課題解決を行う探究的な学習が有効であることが示唆されている。

また、教員のアンケート評価については、毎回学期末に集計した後に、担当者間で会議を開き、前述した生徒のアンケート評価と同様に、改善する部分は改善し、職員会議に提案し、次の「未来計画」を実践する、というPlan・Do・Check・ActionのいわゆるPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの側面を重要視して行っている（梶, 2018）。例えば、平成30年度前期の「未来計画」では、グループ内で時間を持って余す生徒が少なくなるように、グループのメンバーを5, 6名で編成していたが、平成30年度後期の実践では、4, 5名でグループを編成し、生徒1人あたりの役割が増えるように改善した。また、グループ編成に関しては、平成30年度は、グループに担当教員をつけて指導を行っていたが、令和元年度後期には、担当教員を割り振らないで、できるだけ指導はしないように見守り、生徒が中心となって探究的な学習をするように仕向けていた。さらに、令和元年度前期については、屯田七夕まつりと学校祭の共同開催のため、生徒会執行部、体育常任委員会、文化常任委員会、ホームルーム書記といった縦割りのユニークなグループ（ユニット）編成での探究的な学習となった。

一方、「未来計画」の運営に関しては、授業の実践に関しては全教員で行い、教務・進路指導部のSTCプログラムを担当する教員が中心となり企画・運営を行っていた。その後、クラウドファンディングを行ったり、屯田七夕まつりと学校祭の合同開催などがあり、生徒会担当の教員も「未来計画」の企画・運営に携わっていった。また、イノベーション教育ネットワークにおける実践校として、令和2年8月に「未来計画」におけるプロジェクトを発表する目標があり、その主担当に生徒会担当の教員が当たっていた。このように、様々な担当が複雑に交錯して「未来計画」の運営をしていたので、どの部門の担当が主となるのが非常に曖昧であった。さらには、授業時数に関しても当初計画していた時間数よりも足りなく、追加で授業を行ったり、終わらなかったりした部分については、放課後に活動することもあった。また、既存のSTCプログラムとの棲み分けも今後の課題となっている。そのため、職員会議では、次の「未来計画」の提案が上手く進まず再提案することもあった。そこ

で、このような問題を解消するために、令和2年度には、「湧別高校未来計画実行委員会」を立ち上げ、各関係部門・各学年から教員を輩出し、バランスの取れた運営を心がけるようにした。これに関しても、新しい取り組みを始める時には、三河内・藤井・木村・秋田（2020）が指摘するようには、たくさんの不満や疑問を解決しながら前進していくことが必要である、と示唆している。

いずれにせよ、社会に開かれた教育課程の推進を通して、地域と連携・協働し、教科横断的な視点から、学校教育目標の達成を通して、総合的な探究の時間が重要な役割を果たすこととなる。本稿では、湧別町にある人的・物的資源を十分に活用して、答えがない予測困難な時代に立ち向かうための取り組みの1つである「未来計画」について報告し、考察した。現在、この課題に取り組むために、北海道の高等学校においても様々な実践が行われている（辻・堂徳, 2019）。このような実践を行う中で、地域を素材とした特色あるカリキュラムの創造を積極的に追求していくこと（玉井, 2002）や、少人数ゆえに、機動力のある取り組みを展開すること（境, 2020）により、地域の活性化につなげることが可能となり、地域の創生を促す一助となることが期待される。

注

- 1 本稿は、平成30年12月11・12日に行われた平成30年度北海道高等学校教育課程研究協議会に提出した資料、ならびに、令和元年11月18日に行われた令和元年度オホーツク管内高等学校教務担当者研究協議会において、一部口頭発表したものに修正・加筆を施したものである。
- 2 ただし、市町村立高等学校については除いてある。
- 3 「STC」とは「school to career」の頭文字で、「学校から職業・生涯へ」という意味である（アメリカのコネチカット州で実施したキャリア教育のプログラム名）。「～きっと見つかる 未来の可能性～」は高揚感を持たせ、将来について考えていく姿勢を感じさせるものである。このSTCプログラムのねらいは、「地域人材や環境・産業との関わりから、自己の生き方・在り方を見つめ、勤労観・職業観を育成する中で、将来の目標を叶えるための取り組みを行うことができる」である。
- 4 全校生徒対象にも未来計画のアンケートを平成30年度及び令和元年度の前期末・後期末実施後にアンケート調査を行ったが、こちらに関しては、質問事項が毎回異なり、また、膨大な記述量となるため、本稿では割愛した。詳しくは、湧別地区中高一貫教育推進委員会（2019）と湧別地区中高一貫教育推進委員会（2020）を参照されたい。

謝辞

本稿においては、北海道湧別高等学校の村田一平校長、北海道旭川東高等学校の今野博友教頭、そして、北海道浦河高等学校の上田浩人教諭に、貴重なご助言、及びご示唆を頂きました。深く感謝申し上げます。また、北海道教育大学旭川校の石塚博規教授には、本原稿を推薦していただきました。深く感謝申し上げます。さらに、査読者の方々から、問題点を指摘していただくなどご教示を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 江草千春（2006）, 「外国語指導助手との“Show & Tell”活動に関する考察－宗谷管内及び離島におけるワン・ショット形態でのコミュニケーション活動の実用的示唆－」『へき地教育研究』61, 47-55.
- 深見智一・森健一郎（2020）, 「へき地・極小規模校における教育課程の再編成－総合的な学習の時間の見直しを事例として－」『へき地教育研究』75, 79-86.
- 後藤幸洋・川端愛子（2019）, 「高等学校福祉科におけるESDとキャリア教育に関する一考察－小規模総合学科における実践を通して－」『北海道文教大学研究紀要』43, 125-136.
- 北海道教育委員会（2020）, 「北海道の先生になろう～そのチカラ、北海道のミライのために～」Retrieved from <http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/kyuryoteate.htm> (2021年3月6日).
- 北海道教育庁学校教育局高校教育課（2020）, 『地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～』.
- 岩本悠（2015）, 「地域社会への貢献意欲と夢を育むキャリア教育～グローバル人材育成に向けた隠岐島前高等学校の「夢探究」の実践と考察～」『生活科・総合の実践ブックレット』9, 84-99.
- 梶輝行（2018）, 『高校カリキュラム・マネジメントの基本－たしかなカリキュラム研究・開発・マネジメントのために－』東京：学事出版.
- Mikouchi, A., Akita, K., & Komura, S. (2019). A critical review on project-based learning in Japanese secondary education. *Tokyo Daigaku Daigakuin Kyoikugaku Kenkyuka Kiyō*, 58, 373-385.
- 三河内彰子・藤井佑介・木村優・秋田喜代美（2020）, 「探究型カリキュラム開発における学校のオーラルヒストリーの分析」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59, 467-484.
- 宮前耕史（2015）, 「「地方創生」時代における「地域に根ざした教師」像－理論モデルとしての「地域創造型教師」とその養成プログラム開発に向けた研究課題－」『へき地教育研究』70, 53-61.
- 茂木和佳子・松本健義（2020）, 「SGH教育プログラムにお

ける地域連携・協働による探究型学習の事例研究』『上越教育大学研究紀要』39(2), 371-384.

文部科学省 (2018a). 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示)』.

文部科学省 (2018b). 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編』東京: 学校図書株式会社.

文部科学省 (2019). 「2019年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」地域協働推進校 (アソシエイト) について」 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1416620.htm (2021年3月14日).

日本イノベーション教育ネットワーク (2018). 「日本イノベーション教育ネットワーク (協力OECD)」 Retrieved from <https://innovativeschools.jp/> (2021年3月14日).

境智洋 (2020). 「へき地教育に関する研究動向－へき地・複式教育における指導法の変遷とパラダイム転換－」. 日本教育方法学会 (編). 『公教育としての学校を問い直す－コロナ禍のオンライン教育・貧困・関係性をまなごす－』 (pp. 138-152). 東京: 図書文化社.

篠原岳司 (2019). 「北海道の地方小規模高校の現状と存続の条件: 条件整備の課題」『北海道大学教職課程年報』9, 19-24.

高嶋真之・岩瀬優・大沼春子・木村裕・寺本一平・平子裕・森田未希・篠原岳司 (2017). 「離島地域における超小規模高校の教育と地域おこし－羽幌町立北海道天売高等学校・天売島を事例に－」『公教育システム研究』16, 119-156.

玉井康之 (2002). 「現代におけるへき地教育の特性とパラダイム転換の可能性」『へき地教育研究』57, 1-5.

玉井康之 (2013). 「北海道のへき地の地域性を活かした地域教材開発とカリキュラム開発の必要性」『へき地教育研究』68, 1-12.

辻敏裕・堂徳将人 (編著) (2019). 『「社会に開かれた教育課程」を実現する高校－これからの社会を見通した学校経営と授業－』東京: 学事出版.

山崎保寿 (2018). 『「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム・マネジメント－学力向上を図る教育環境の構築－』東京: 学事出版.

安永悟 (2012). 『活動性を高める授業づくり－協同学習のすすめ』東京: 医学書院.

湧別地区中高一貫教育推進委員会 (2019). 『湧別地区中高一貫教育平成30年度研究集録』紋別: 横田印刷.

湧別地区中高一貫教育推進委員会 (2020). 『湧別地区中高一貫教育令和元年度研究集録』紋別: 横田印刷.



写真1 仕事の内容・やりがい・魅力を聞く



写真2 相互発表の様子



写真3 綿あめ・金魚すくいプロジェクトの様子



写真4 プロジェクトについてのグループ活動の様子

湧別高校魅力化プロジェクト構造図

<湧別の抱える諸問題>

人口減少・高校生減少・高齢者の増加・人手不足・外国人増加・部活動の不連続性・教師数の減少・部活数の減少(継続性の低下)・娯楽施設の少なさ・価値観の固定化・町-高校のビジョン共有不足 など

A: 町づくり参画

～未来計画プロジェクト～

H30後期:「湧別町の魅力」
H31前期:「私たちにできる地域活性」
H31後期:「プロジェクト報告会」



高校生ができる町おこしプロジェクト開催

考えられるプロジェクトの例

- ① 湧高生主催バスツアー
- ② youtubeのPRチャンネル作成
- ③ 新しい湧高グッズ作成
- ④ 老人会とのコラボ
- ⑤ 特産物をつかった新メニュー開発
- ⑥ 小中高コラボイベント
- ⑦ 町民運動会
- ⑧ カレーマラソン大会
- ⑨ バス停のベンチ作り
- ⑩ 農作物販売 他

担当: 主として英語・社・理・家以外の教諭

B: 国際交流

～留学を柱にした活動～

留学制度という資源を最大限活用する

(1) 留学に行く

- ① 留学先の事前調べ学習(特に留学生がいるクラス)
- ② 校内留学報告会
- ③ 校内留学壮行式
- ④ 留学中の本校生徒とのビデオチャット
- ⑤ 留学後のレポートポスター廊下掲示 他

(2) 留学に来る

- ① 全校ウエルカムパーティー
- ② 留学生の家族・友人とのビデオチャット
- ③ 生徒による湧別町案内ツアー
- ④ 系統化された日本文化体験授業(折り紙、書道等)
- ⑤ 全校さよならパーティー 他

(3) 海外への発信

- ① 英語版湧別町の魅力を集めたHPの開設
- ② 英語版湧別町魅力マップ作成・配布
- ③ youtubeチャンネルの作成 他

担当: 主として英語教諭(ISN2.0のメイン)

C: 郷土愛

～特色ある設定科目～

湧別町の魅力を知る・体験する・発信する学校設定科目(科人・北海道学・ライフデザイン)により郷土愛教育の充実

(1) 北海道学(社会科)

- ① 縄文土器作成教室
- ② 町内遺跡巡りフィールドワーク
- ③ 地域産業見学
- ④ 郷土館学習
- ⑤ 地域講師による講演会 他

(2) 地域と生活(家庭科)

- ① ふるさと料理を作ろう(ホタテの稚貝を利用)
- ② 生徒による近隣幼稚園教室
- ③ アイヌ文様刺し子授業 他

(3) 科学と人間生活

- ① 農作物体験教室
- ② 生徒による地域小学校向け出前教室
- ③ ホタテ解剖授業 他

担当: 主として社・理・家の教諭

答えのない問題に対し、協力しながら解決策を見つけ、実現に向けて試行錯誤する経験を通し、町の良さを再確認し、発信し、町作りに参画する子どもを育てる

資料1 「湧別高校魅力化プロジェクト構造図」

新しい魅力的な授業を自分たちの力でつくりたい！

校訓にあるように、「自ら求めよ」と私たちは自分たちの力で立ち上がりました。

クラウドファンディングにご協力ください

期間／2018年

9月25日(火)～11月30日(金)

クラウドファンディングサイト／
朝日新聞 A-Port

[https://a-port.asahi.com/
projects/yubetsu-futureplan](https://a-port.asahi.com/projects/yubetsu-futureplan)

ご協力はサイトへ登録、または
コールセンター 03-6869-9001
(平日10時～17時)に！



■このプロジェクトについて

北海道・湧別高校生徒会執行部では、総合学習で“湧別未来計画”を予定しています。地域の課題に向き合い、都市（東京など）で働く人の話を聞くことで、将来の選択肢を考えるチャンスにしたいと思っています。

そこで、授業の実現に必要なゲストスピーカーを招待する交通費などの経費をクラウドファンディングで募集します。湧別高生の未来を考える授業のために、みなさまのご支援をお願いいたします。



■“未来計画”の実現がもたらす「いいこと」

私たちがプロジェクトで実現したいことは下の3つです。

- ①今までマンネリ化している、湧別高校生の進路活動を大きく変えたい。
- ②都会で暮らすいろいろな社会人のお話を聞きたい。
- ③“未来計画”を湧別高校が誇る、新しい目玉にしたい。



■高校卒業後の人生選択を考えるチャンス

みなさん、はじめまして！

私たちは北海道紋別郡湧別町にある、湧別高校生徒会執行部です。私たちは、現在、入学者減少によってなくなってしまう危機にあるこの湧別高校で、町の未来を担う人材を創るための授業、“湧別未来計画”を実施したいと考えています！

未来計画とは、東京で働く社会人の方（3名を予定）を湧別に招待して、生徒達へむけたキャリア関連の講演をして頂いたり、町の課題解決や地域活性化のためのディスカッションをする時間のことです。この授業を湧別高生の卒業後の人生の、さまざまな選択や考え方について考える機会にするだけでなく、今回のクラウドファンディングの活動を通じて、湧別のことを知らない方々へ町の魅力や課題について伝えていく事ができればと思っています。さらに、この授業が高校の特色となることで、湧別高校を進学先を選ぶ地元中学生が増えるというゴールにも繋がっていただくと考えています。

みなさまからのご支援は、この授業の経費（招待者の交通宿泊費など）にあてさせていただきます！

■湧別高校の魅力をアピールして生徒を増やしたい

私たちの通う湧別高校は、町唯一の高校。「自ら求めよ」という校訓のもと、全校生徒115名が学んでいます。地域の3中学校と連携し、授業や進路活動などさまざまな交流をしています。

しかし現在、湧別町出身者の湧別高校への進学率は40%まで低下。徐々に各学年1クラスの小規模校になりつつあり、先生の数も年々減ってしまっています。

もし、湧別高校がなくなったら……？

高校を中心とした文化祭やイベントがなくなり、地域のちょっとした楽しいことや、近所のみんが気軽に集まって話をする機会も失われてしまいます。

町の一大イベントであるチューリップ祭り、ウルトラマラソンのボランティアにも、湧別高生がいなくなってしまうのです。

なにより、私たちが気にしているのは、「湧別」の未来を考えて生活する高校生が、湧別からいなくなってしまうことです。

今の状況を打開すべく、教員と生徒会で話し合い、総合学習の時間を使って“未来計画”という新しい授業を実施しようと考えています！

